

エ 自己評価票

毎時間の学習について、自己のつまずきや到達の度合いを確認させ、その後の学習に生かせるようにするため、下記のような自己評価票を作成し、授業のまとめの段階で使用した。

また、授業後にそれを提出させ、教師が目を通すことによって、一人一人の生徒のつまずきや到達の度合いを把握したり、簡単なコメントなどを記入することにより、個に応じた働きかけを行い、学習意欲を高めることもねらいとした。

なお、自己評価の結果や、それに対する教師の働きかけについては、学習指導カードに記入しておき、一人一人の生徒の学習の様子を継続してとらえられるようにするとともに、意図的・計画的な指導が進められるようにした。

自己評価票

氏名 (B 子)

// 月 4 日 $○x+\Delta=\nabla x+\square$ の形

1. 授業のはじめに、何を学習するのか、めあてがつかめていたか。
(はい, いいえ)
2. わからないところがあったか。
(はい, いいえ)
はいと答えた人
(1) そのつまずきがどんなことかつかめたか。(はい, いいえ)
(2) そのつまずきが解消できたか。(はい, いいえ)
3. 学習の進みぐあいが具体的にわかったか。(はい, いいえ)
4. 何を学習したかがはっきりとわかったか。(はい, いいえ)
5. 学習が楽しく意欲的に取り組めたか。(はい, いいえ)
6. もっと学習してみたいと思うか。(はい, いいえ)

具体的に……

$-5x+2x$ の計算を $3x$ としてしまった。わかっているのに残念だった。

教師から

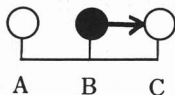
ていねいに計算し、見直すことが大切ですね!



7. つまずき解消のために選んだ問題番号 8. 学習コース

(2)

9. 小テストの結果
-



なお、自己評価票の記入のしかたは次のようにする。

- ㊦ 項目 1～6 については、毎時間記入する。

7, 8 は分枝型学習を取り入れた授業のとき、9 は小テストを実施したときに記入する。

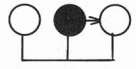
- ㊧ 学習コースについて

- 選択したコースの○を赤で囲む。



(例) Bコースを選択した場合

- 選択したコースが終了できたら、○をぬりつぶし、次に進んだコースに矢印をつける。(そのコースも終了できたら、同じようにぬりつぶす。)

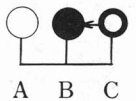


(例) 選択したBコースが終了し、Cコースに進んだ。

- 選択したコースにつまずいて、終了できなかった場合には、そのまましておく。

- 最初に選択したコースはつまずいたが、別のコースで到達したときは、そのコースの方向に矢印をつけ、○をぬりつぶす。

(例) Cコースを選択したが、つまずいてBコースへもどり到達した。



- ㊨ 小テストの結果について

(例) B子の場合

(正答) ● — ● — ○

(1) (2) (3) (問題番号)

(誤答) ○ ○ ●

B子は(1), (2)に正答し、(3)でまちがいをした。